

令和3年度 第2回中津川市総合計画推進委員会 主な意見

日時：令和3年10月12日(火) 13:00～14:00

場所：中津川市役所 4階大会議室

議事1 総合計画推進委員会各部会報告について

- ・事務局より【資料】総合計画推進委員会提言書(案)により報告

議事2 令和3年度 中津川市総合計画推進委員会提言書(案)について

- ・事務局より【資料】総合計画推進委員会提言書(案)の構成の説明
- ・委員長より総論部の説明

昨年度6事業について検討したところを、本年度は22事業について検討していただき、各部会においてとても有意義な検討が行えた。

また、そこに参加した職員も、気づきがあったのではないのかということ、部会の中で感じる事ができた。

これを、委員会の中での取り組みのみで終わらせるのはもったいない。各部会の中で、分野横断的な取り組みが必要であるということは、共通の認識として出てきているので、それを普段の業務の中でも活用できる形としていただきたいということを期待して総論とさせていただいた。

また、後期の総合計画策定に向けて残りの期間、皆様のご協力を頂きながら、尽力をしていきたいというところで、総論をまとめさせていただいた。

- ・令和3年度 中津川市総合計画推進委員会提言書(案)の採択

前回一致にて令和3年度中津川市総合計画推進委員会提言書(案)を、令和3年度を総合計画推進委員会の提言書とすることに決する。

議事3 その他(令和3年度 検証に対する意見)

- ・最初の頃と思うと随分数字的なものも良くなっており、わかりやすくなったと思っている。

・企業のブランディング或いは市のブランディングをした時に、どういう戦略でやってくかということが大事である。どういう商品をつくれれば消費者に満足いただけるかっていうことが大事であるが、ともすると、市でも企業でも、市長や社長を向いて仕事をして、市民や消費者を見て仕事をしていないところが見える部分がある。そういった意味を考えて、やはり、中津川に来ていただきやすいということをかかして数値化していくのが大事だと思う。随分よくなったとは思いますが、まだまだ発展途上と考えているので、それを意識しながらやっていただきたい。

・連携を持つ場が出来てよかったと感じる。私は、商業振興課と毎月面談するが、今までこういう機会がなかったという話をきいた。日常業務がある中で、集まって話をする機会はなかなかつくれないのかもしれないが、今後は、ぜひ若い人を中心にそういった機会を作ることができればいいのではないかなと考える。

・今回、話を聞いて、中津川市の中で数多く良いものがあることを感じた。その利用者の声等のいいところをより発信してもらいたい。悪いところは自然と目につきやすいが、いいところは自分たちから発信しないとなかなか目につかず、認識してもらえない。いいところをより多く集めて、より多く発信してもらえれば、中津川市がいいところだというイメージがつく。そうすれば住んでいる人も、ここに住んでよかったと思ってもらえると思う。いいところを集めて発信してもらいたい。

・こうした会議が行われていることを知らなかった。このように熱心に話し合いが行われていることに驚きを感じたと同時に、こうしたことに支えられているのだなということを感じた。こうして一生懸命、市の職員や、色々な方がいっしょに街にしていこうという気持ちで日々取り組んでいることを、色々なところで広げていきたい。住んでいる人がいい町だと思えば、外からの人は入ってこれると思うので、そういったいい街になるように、食の面からいろいろ手伝いをしていきたいと思う。

・今までと変わったやりかたということで、職員が横断的に、様々な課が参加して様々な意見を出していたので、その辺はすごくよかったと思う。どこの部会でも横断的に連携をとることが大事だとまとめ

ているので、やはり連携をとることが大事だと思う。先ほど、市のPRがすごく大事であるが中津川はそれが下手だと言われていたが、一生懸命PRしても受けた方が聞いていないこともある。市民がどうやってそれを受けとるのかということが問題であると感じる。

・他の地域から見て、中津川市は本当いいところだと感じている。産業にしてもしかり、観光にしてもしかり、食にしてもしかり。岐阜県内でもこれだけいろいろなものがそろった市はなかなかないのではないか。皆さんも言われた通り、それをいまいちPRができていないと思っている。行政としては、予算をつけて事業をやるが、やりっ放しのところが結構あるので、やはりPDCAに基づいて、やった以上は検証していただき、次にどう生かすかを、もっとやっていけば、もっといい市になっていくのではないかなと思う。

・市役所の担当課が顔をそろえた中で議論をしていくということに、職員がどう思うのかを見ていたが、担当課からもよかったという意見があり、分野横断的な取り組みができて色々な視点から感じることもあったであろうし、今回はよかったと思う。担当課から今回の委員会はよかったという声聞き、やってよかったと、私自身も非常に参加しやすかったという印象があった。おそらく、市の職員が自分たちの現場を円滑に運営し、分野横断的に効率化できたり合理化できたりということが可能になっていけば、当然に市民サービスは改善して、向上していくと感じたので、今回のこの委員会だけを分野横断的な取り組みとするのではなく、継続した取り組みをしていただきたい。

・何とかして縦割りの意識をこの委員会の中で打ち破るということできないかと思っていた。2回の部会があり、1回目では他の部署への意見を言う雰囲気重かったが、2回目になって、意見を言ってもいいのだという感じができてきたと思う。そういう意味で、自分の部署ではなくとも、自分が思ったことを言い合えるような組織ができていくといい。活力のある市役所が、活力がある市、市民を作るということを言っていたことあるが、そんな雰囲気になるといいと思っている。「青天を衝け」の中で改正掛というものを作っている場面があったが、それぞれが様々な言いたいことをいい、それを主人公が、今で言えばホワイトボードに、ニコニコしながら書いている。そのように考えたことをどンドン言える、それを受けとめるということが必要である。そういう意味では、トップや部長達がそれを受けとめながら、雰囲気を盛り上げてもらうといいと感じた。後期の計画の話もあったので、つくり出していくときにそんなことができればいいと願っている。

・第1部会で言えば、中心的なテーマとして後継者問題があり、それについて各部署が重要視して、問題意識を持っている。そして、それぞれで取り組んでいるのだがうまくいってないという共通認識ができたのではないかなと思う。そうして出てきた共通認識を施策としてどう反映していくのか、それを今後どのように組織として反映していくのかを、今度は各部署から見られていくのではないかなと思う。そういった実際に部署で働いている側と、それを管理している側とのうまいキャッチボールが市役所の中で出来ていくと、魅力的な活力ある市役所が、市を元気にしていくというところに繋がっていくのではないかなと思うので、継続していただきたい。